

- 第5回研修会開催報告 ……1
- 第6回研修会 案内 ……2
- 漢字教育サポーター育成事業 ……3
第2期(Web講座)受講者募集
- 漢感興起～巷に生きる漢字あれこれ～ ……4
- 漢字一字に込める想い ……5
- 初めて一級に合格しました! ……6
- 漢字同好会からのお知らせ ……7
- お知らせ 投稿募集 ……8

第5回 会員向け研修会開催報告

9月22日(土)に福岡市の福岡センタービルにおいて、第5回会員向け研修会を開催しましたところ、46名の参加がありました。福岡教育大学 美術教育講座(書道分野)の小原俊樹教授によるご講演では、甲骨文字から書の世界、そして「書く」という行為そのものについてのお話をいただきました。

講演の部 要旨

漢字の祖形に込められた 古代人の思考

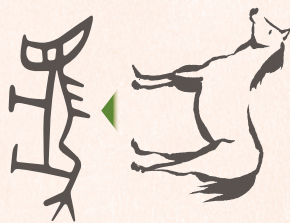
福岡教育大学 美術教育講座(書道分野)
教授 小原 俊樹 先生

正確に書くのは難しくてもパソコンで打ち出すのは容易な字として、常用漢字表に「鬱」が追加されました。このことが示すように、機械化や情報化が進む中で、従来の「読み書き・そろばん」は「読む・打つ・パソコン(十変換)」に、そして「日本語を書く」という行為は「ローマ字キーを叩く(液晶画面をなぞる)」という行為に変化してきています。

このような時代を迎え、書の表現方法も広がっていきましました。伝統的な漢字の書・仮名の書・篆刻、戦後に生まれた一字書や漢字仮名交じり書などに加え、現代では古文字の象形性に着目するという新しい書のジャンルが注目されています。

体系を持った最古の漢字である甲骨文字を、絵文字として認識されている方も多いでしょう。もちろん象形的な文字を基盤にしています。複雑な構成をしていたり、極めて優れた描写表現がなされていたりと、相当に進化していた文字といえるのです。

例えば「馬」という甲骨文字は、馬全体を縦にした形となっており、実際の写実画とは異なるため、すでに甲骨文字は単なる絵ではなく文字として機能していたと



馬の甲骨文字(左)は、立っている馬を回転させた形になっている。
(甲骨文字…白川静『字通』平凡社より抜粋)

共有され、それを示す字形を「馬」として認識・判別していたこともわかります。

その他、甲骨文字に見られる描写法として、真上からつぶしたように描く「展開図描法」、様々な角度から対象を描く「多視点描法」などがあり、本来見えないものを透視したように描く「レントゲン画」、関心の強いものを大きく描く「誇張表現」なども見つけることができます。

対象を感動的に捉え、優れた発想力で当時の様子を写し取るこれらの表現方法は、幼児の描く絵に非常に似ています。長い時を経て字形は変化しましたが、その祖形には、古代人の素朴な視点と発想が込められていたのです。

「かく」という語には、「欠く・掻く・描く」など、対象物に傷をつける、すなわち「ひつかくこと」がその底に流れています。ですから、「書く」というのは、筆で紙の上を撫でる行為ではなく、ひつかくように、自分の思いを対象に刻み込み、定着させていくことといえます。ドイツの美術評論家クリスチャン・シエフラーは、「文字を綺麗に書く授業がなくなつて以来、若者の心の乱れや犯罪が増加した」と指摘しています。手書きは、例えば筆書きなら、筆のうねりや穂先のねじれを通じて、紙との摩擦を感じることができ、手書きの機会が減って、対象物とのふれあいが極端に少なくなったことは、現代の人と人との関係の希薄化にも通じているとの指摘もできそうです。

文字は読めるように書きさえすればよい、という意見がありますが、書く立場で考えると、「アルファベットの二文字は漢字の一点一画に相当する」もので、例えば4画の「手」は、一画一画がそれぞれ「H」「a」「n」「d」というアルファベット4文字に相当します。「Hand」が一字変わると「Hang」など全く別の意味になってしまうように、各点画をどのように書くかは重要なのです。

漢字は書くのに時間がかかる分、対象や書くことそのものへの思い入れが深い、そのような文化が我々の基盤にあるのです。



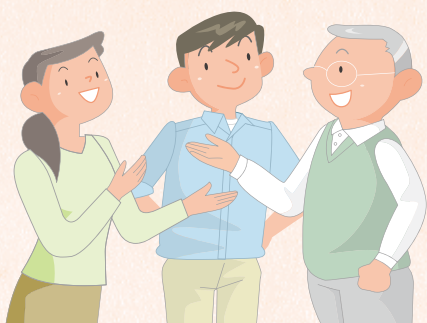
ということが窺えます。

さらに、馬を表す甲骨文字をいくつか比較すると、微妙に形が違っていますが、全てに三本のたてがみが描かれています。このことから、その対象の象徴部分↓馬の場合は「たくさんのたてがみを持った獣」として人々に

交流会を 開催いたしました

第5回研修会でも、前回の仙台での研修会と同様、交流会を開催しました。漢検合格のコツや勉強法などを、皆様楽しんでお話しされていきました。今回は各漢字同好会から発行されている同好会資料を展示したところ、会員の皆様はその完成度の高さに驚かれました。

毎回、たいへんご好評をいただいている交流会は、次回の第6回研修会でも開催する予定です。200人規模を予定しておりますので、一人でも多くのネットワーク会員とつながる機会になることを祈っております。



聴講者

発表者募集

第6回

漢検生涯学習ネットワーク会員向け研修会

- 日時 ● 平成24年12月15日(土)
13時30分～16時45分 (13時00分 受付開始)
- 場所 ● 日本青年館ホテル 東京都新宿区霞ヶ丘7番1号
- アクセス ● JR：中央・総武線千駄ヶ谷駅もしくは信濃町駅から徒歩9分
地下鉄：銀座線外苑前駅から徒歩7分
大江戸線国立競技場駅から徒歩7分

- プログラム ● 講演 円満字 二郎(編集者・ライター)
テーマ『漢字の辞書の作り方』

プロフィール

1967年、兵庫県西宮市生まれ。大学卒業後、出版社で国語教科書や漢和辞典などの担当編集者として働く。2008年、退職してフリーに。著書に『漢和辞典に訊け!』(ちくま新書)、『常用漢字の事件簿』(NHK出版生活人新書)、『政治家はなぜ「肅々」を好むのか 漢字の擬態語あれこれ』(新潮選書)、『漢字ときあかし辞典』(研究社)などがある。

HP: <http://bon-emma.my.coocan.jp/>

会員発表 1名(発表は1人30分以内)

※会員発表後に、簡単な交流会を予定しています。

- 聴講者定員 ● 200名
- 参加申込方法 ● 以下のいずれかの方法でお申し込みください。
FAX・郵送…同封の「第6回会員向け研修会 申込用紙」(挨拶文裏面)に必要事項を記入の上お送りください。
Eメール…申込用紙の必要事項(氏名・電話番号・会員番号・住所(送付先に変更がある場合のみ))をメール本文に記載してお送りください。
※応募者多数の場合は抽選となりますのでご了承ください。
※参加の当落については12月初旬に郵便もしくはEメールにてお知らせします。
- 申込締切日 ● 平成24年11月28日(水)(協会必着)

研修会にてご自身の研究発表をされる会員を募集します!

ご自身の日ごろの漢字学習・研究の成果を発表されませんか?
発表時間は1人30分以内です。

発表希望者は、同封の「研修会申込用紙」の発表希望の項目をチェックし、発表したい要旨(A4用紙1枚以内)を添付してFAXもしくは郵送でお送りください。Eメールでの申し込みの場合は、要旨を添付ファイルでお送りください。発表希望者多数の場合は選抜させていただきますので、悪しからずご了承ください。当落の結果は、12月初旬までにお知らせします。



第2期(Web講座)受講者募集

全国で漢字教育を支援していただける方を増やしていきたいと始まった「漢字教育サポーター育成事業」。平成24年2月より第1期講座を開講し、現在120名の方が受講されています。第1期は東京と大阪でのライブ講座でしたが、なるべく全国にサポーターを増やしていきたいと考え、立命館大学での通信制講座の開発を支援してまいりました。その甲斐あり、第2期よりWebを用いた通信制講座を開設する運びとなりました。

本Web講座は、自宅のパソコンなどで動画を見ながら受講するスタイルです。お仕事やお住まいの関係で出席が難しかった方も受講できます。第1期の受講者から寄せられたご意見等を元に授業内容を改善し、よりわかりやすい講義に仕上げていきます。

なるべく多くの方に受講していただくよう、第2期から受講定員を250名に増やしました。そのため、受講者の皆様にも受講料の一部をご負担いただくこととなりますが、ご理解を賜りたいと存じます。応募に関する手続きや講座のカリキュラムは同封の募集要項をご覧ください。応募締切日は、平成24年12月7日(金)(必着)です。皆様のご応募をお待ちしております。

第1期漢字教育サポーター育成講座

受講者インタビュー

現在、第1期受講者として受講中である矢作詩子さんに、講座を受講しての感想をうかがいました。

——今回、サポーター講座を受講したいと思われた理由をお教えください。

長年、英語と日本語の講師をしており、10年前から大学の生涯学習講座で漢字の教養講座を担当しています。講義資料の作成にあたっては、文献を読んだり大学の講義を聴講したりと常に模索状態でしたので、会員通信で漢字の体系的学習の機会が、サポーター講座として得られることを知って、応募しました。

——これまでで特に興味深かった授業をお教えください。

「漢字学総論Ⅰ」「説文解字」①②(※)では、字の成り立ち解説に必ず引用される「説文解字」について、許慎が著した当時の考え方や、字書の構成とその後の内容の展開を簡潔に講義していただきました。

「漢字学各論Ⅰ」白川文字学は、白川静先生と一緒に『人名字解』を編纂された津崎先生の講義でしたのでとても楽しみでした。難解な白川先生の文章も分かりやすく言い換えてくださり、体系的な白川文字学が学べました。折にふれての白川先生のエピソードも興味深かったです。

(※)…第2期では「漢字学総論Ⅱ」となります。

——講師としてすでにご活躍中ですが、講師生活の中で役立つ知識はありましたか？

大学の生涯学習講座では、「漢字の歴史、成り立ち、書体の変遷」についての講義要望が多くあります。今回受講して、これらを網羅する各先生方の深く広いお話を聞けたので、即、講座に活かすことができました。

講義内容は勿論ですが、講義の進め方、時間配分、資料の提示法、質問への回答の仕方など、各先生方の個性溢れる講義の運営方法も、講師として大変参考になります。

また、豊富な参考文献を紹介いただいたことも役立ちました。

——第2期受講者に向けて、メッセージをお願いします。

漢字の専門的な講義を、凝縮した時間で体系的に受講できる大変いい機会だと思います。

大学の講座を担当しているこの10年間に人名用漢字が大幅に増え、また、常用漢字の追加という歴史的な出来事もありました。パソコンの普及により、大きな変化がある時期だからこそその漢字への関心の高さを感じ続けてきました。私は今回のサポーター講座で、漢字の文化の深さに触れて、更に興味が高くなり、漢字学習の面白さをもっと伝えたくくなりました。

漢検受検の勉強を通じ、漢字の豊富な知識をお持ちの方々だからこそ、この講座で漢字の歴史の深さや字源の面白さを更に学び、是非次世代に伝えていっていただきたいと願います。

第1回

漢感興起

かんかんこうき

「巷に生きる漢字あれこれ」

「観感興起」…目で見、心に感じ、感動して奮起すること。

(漢検四字熟語辞典より)

さまざまなお仕事を通して感じる、またそれぞれの立場から観ると、漢字の姿は様々ではないようです。このコーナーでは、漢字と特別な関わり合いを持つ人を取り上げ、その人ならではの「漢字模様」について伺います。

第1回は、(株)バンダイ キャンディ事業部・玩具菓子チームの桐ヶ谷美沙子さん(27)。

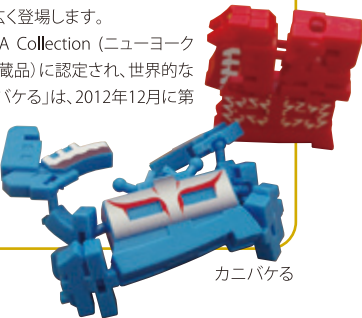
漢字を楽しいおもちゃに変えた桐ヶ谷さんの視点に迫ります。

「超変換!!もじバケる」シリーズ

漢字の形をしたブロックを組み替えると、その漢字どおりの動物に「超変換」する玩具菓子です。漢字がそのまま動物に変わるというユニークな発想と、変形の面白さが評価され、12月までに1000万個販売見込みの大ヒット商品となりました。

バケる漢字は「犬」「馬」「魚」といったベーシックなものから、「鱈」「扉」「蠍」といったネットワーク会員おなじみの難読漢字まで幅広く登場します。

2011年にはMoMA Collection (ニューヨーク近代美術館 永久収蔵品)に認定され、世界的な評価を受けた「もじバケる」は、2012年12月に第6弾を発売予定。老若男女を問わず夢中になってしまいう商品です。



カニバケる

——そもそも、おもちゃに漢字を使ったきっかけは何でしょうか。

小学生の男の子が漢字の練習をしていて、「龍」という漢字をカッコいいと言ったのを聞き、男の子からすると漢字ってカッコいいものなんだ、と思ったところからスタートしました。子どもにとって、漢字は「勉強する対象」だと思っていたので、カッコいいという感覚が湧くことに驚きました。

——漢字が「カッコいい」という感覚は新鮮ですね。選ばれている漢字はみんなが知っている簡単な漢字もあれば、書くのも難しい複雑な漢字までありますが？

第一弾を作るときは、ターゲットを小学生の男の子と想定していましたので、難しい漢字を入れても知らないのではないかとという懸念があり、一・二年生でも習う「犬」「魚」などの漢字を中心に商品を展開しました。

でも、実際に子どもに調査をしたところ、難しい漢字に否定的ではなく、むしろ「読めたらすごい」とか、「カッコいい」という意見があり、抵抗がないことがわかりました。そこから、難しい漢字で形が面白い動物というのも、ラインナップの候補に挙がるようになりました。

——漢字を用いたおもちゃはいろいろありますが、漢字の学習に重点を置いたものが多いです。一方「もじバケる」は、「遊びで漢字を学ぶ」というより「漢字そのもので遊んでいる」という印象を受けますね。



開発者の桐ヶ谷さん

漢字そのものの形をしたおもちゃはあまりないのでは、はじめは奇抜なアイデアだったと思います。「もじバケる」は遊びながら漢字を覚えられるということで、知育性もある点が、親御さんからご好評をいただいている理由なのではないかと思っています。

——具体的にはどのような反響がありましたか？

お客様からのハガキで、「子どもが『鱈』という漢字を書けるようになりました」というお声をいただいたり、今までに採用された「もじバケる」の漢字をお子様かららつと書いて送ってくれたり…こんなに漢字を書けるようになったというアピールだと思うんですけどね(笑)

——子どもだけでなく、大人も夢中になってしまいませんか？

商品のアンケートには大人の方の回答もあります。ブログなどで紹介していただけなど、これまで玩具菓子に興味がなかった方も買ってくださいという印象がありますね。最近では、アジアなど海外でも販売しています。

——では、商品を作る時のプロセスについて教えてください。

難しい漢字も面白がつてくれるとはいえ、私が知らないような漢字だと、子どもはおそらくその漢字を知らないでしょうから、動物の姿を見れば同時に漢字も思い浮かぶようなものを選んでいきます。動物図鑑を見たり、設計をしていただいている協力会社と意見を出し合ったりしながら、実際の形に落としこんでいきます。

漢字一字に込める想い

誤りの種から、
笑いの花が咲く

静岡県 プレットさん

初めて「誤」という字を勉強したとき、ただ形が面白いだけで気に入った。曲線が苦手な私にとって、直角ばかりの「誤」は書きやすく、パズルを組み立てるように、右側の「罒」の構成がピタリな感じである。

そして、ふと「誤」の他の重要な力も発見した。

それは「誤りの種から、笑いの花が咲く」ことである。

今まで英語を教えてきた中で、緊張して沈黙する生徒をよく見てきた。私はよくレッスンの語彙を英語・日本語でノートに書いて生徒へ渡している。しかし、ハイレベル漢字に集中し過ぎ、常用漢字の書き取りが余計に鈍くなった私は誤った漢字を書いたことがある。そのとき、生徒が喜んで指摘をし、緊張が解れた。誤りからユーモアが生じたと気づいた瞬間であった。

その後、シャイな生徒に会うとき「誤字」を「誤魔化して」その緊張を解す。誰でもミスを犯すことを見せることで自信をつけるだろう。

——制作している中で、難しいところはどんなところでしょうか？

「牛」など画数が少ない漢字は、漢字のパーツを体のどこにどう使っていいかわからないという問題があります。さらに牛は体が大きいイメージがあるので、動物になったときの姿をできるだけ大きくしたい、という難しさもありました。

——ということは、画数が多い方が作りやすいのでしょうか？

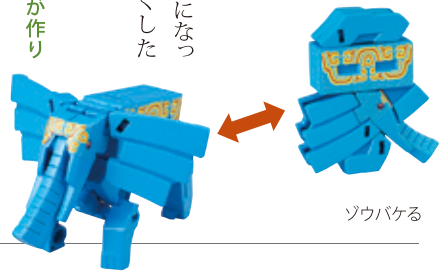
一概にそうとは言えません。漢字のパーツをそのまま活かして、動物の「ある部分」にできれば面白いので、四角い漢字、つまり直線ばかりでパーツの形に特徴がない漢字は難しいです。例えば「蟹」は、はさみの部分に「角」の部分を使っていますが、うまく元の漢字を活かすつ、蟹のはさみらしくちゃんと動くように作れました。

——動物にバケても判読可能な部分が残っているというのが、ただのブロック玩具にはない素晴らしいですね。

カーブがある「豹」という漢字は、偏部分をそのまま体のラインとして用いました。漢字はそれぞれ形も違いますし、漢字そのものの形をうまく使って、よりその動物っぽく作れるように、試行錯誤をくり返しています。

——さて、ここまでシリーズを重ねてこられた、この商品の一番の面白さは何だったのでしょうか？

小学生は、基本的に漢字が苦手だと思いますが、モチーフが動物ですごく分かりやすかったことと、漢字がその漢字の表すものにそのまま変わる、ということが一番支持されたのではないかと思います。



ゾウバケ

——「もじバケる」の動物が漢字に変わるプロセスは、まさしく大昔に動物の姿から甲骨文字が生まれ、長い時間を経て今の漢字になった過程を想起させますね。一瞬のブロックの組み替えで、漢字誕生の歴史を象徴しているような、ダイナミズムを感じます。

——では最後に、桐ヶ谷さんのお仕事を漢字一字で表すなら？

……とても難しいのですが、「楽」という字でしょうか。自分も楽しんで作ってみたいというのと、その商品を手にとった人に楽しんでもらいたいという気持ちからです。

もちろん、決して「ラク」という意味ではないですよ(笑)。

——「楽ではないが、楽しい」お仕事の数々ですね。ありがとうございました。

バンダイからのお知らせ

「超変換大戦 もじバケるG3」発売！

「もじバケるG」とは、「もじバケる」の新シリーズで、小学館の「コロコロミック」とタイアップし、小学生男児向けに発売された商品です。従来の「もじバケる」とは異なり、「爆」や「激」など抽象的な漢字が使用され、その字をイメージさせるドラゴンなどの幻獣に変身します。

2012年10月29日には待望の第3弾「超変換大戦 もじバケるG3」が発売されました。

お問い合わせ

バンダイお客様相談センター
TEL 0570・0411・101



©BANDAI

初めて一級に合格しました!

漢検の最高峰一級に初めて合格した会員の喜びの声ををご紹介します。

平成二十三年度第三回に合格しました。一級は七回目の挑戦、八十二歳でした。三級から始めて準一級までは一発合格。二級で中三の孫の「おばあちゃんすごーい!」の電話に気をよくして二級へ。しかし一級受検は飯豊(いへ)新潟、山形、福島県境の高連峰(たご)登山のように、歯が立ちません。合格まであと三点和肉薄したかと思うと、次の検定ではあと二十二点足りないなど。検定結果通知では、一字訓読、故事成語、当て字、文章題に語選択と、弱みをあれもこれもと指摘されました。何せ私は、高等小学校卒のお婆さん。何をどうすればいいのでしょうか。闇雲でした。漢検協会発行の参考書、問題集は四、五回ずつ、小学生向けの花の表紙の漢字練習帳を百冊は黒くしました。文章題では夏目漱石、中島敦、「そうだ、中国古典も読まなくては」と、論語、春秋、史記、漢詩、文庫本を揃えて飛ばし読みもしました。

そしてこの春、一級合格証書の入った大きな封筒を手渡されました。幾日も幾日も頬が弛みつつ放しました。孫へは「ただの婆さんではないのよー!」と伝えることができ、教師の娘からは花束が届きました。一六三点、ギリギリ合格。私には最高でした。今も「天声人語」を書写し、毎週図書館に通っています。漢検受検の途上で身についた習慣です。ありがとうございます。

新潟県 滝澤さん

難攻不落の一級も、古典文学を読みあさるほどの努力の前には敵ではありません。漢検受検を通して得た学習習慣で、これからもたくさんの方の知識を吸収していきたいです。

私が漢検に挑戦し始めたのは、佐伯泰英の時代小説にはまって漢字の魅力にとりつかれてからです。それにしても一級は私にとって想定外の難関でした。

準一級まではほぼ順調にきていましたが、一級のテキストを開いた途端、クラクラとしたのを覚えています。それでも結果的に、市内の本屋さんにあるだけ全ての一級のテキスト五冊を買い、数えきれないほど何回も繰り返し勉強しました。

しかし、受かったかなと思うこと七回。不合格でした。自分の未熟さを痛感させられる日々が続き、決心をしました。十回でやめよう。そうして平成二十四年一月に、八回目の試験を受けました。一か月後、合格点との差がいくらぐらいかと思つてインターネットで確認したところ、目の前に「合格おめでとうございます」という文字。仕事の悩みが違う世界のように感じるほど放心状態になりました。この歳になつて、これ程嬉しかったことは久しくありませんでした。

極めたという気持ちは全くありません。多分、偶然的の賜物でしょう。いずれにしても漢字の世界に足を踏み入れて大変良かったと思つています。漢字の世界は広く深く、これからも一生の友になると思つているところです。

長崎県 立光さん

「十回でやめる」という強い決意があったからこそ、一回一回の試験をそれまで以上に大切に受検できたようですね。ぜひ、広く深い漢字の世界をさらに探究していきたいです。

平成二十三年度第三回検定に合格しました。苦節十三年(ブランク五年を含めて)、受検十三回、齢六十九才にして漸く栄冠を勝ち取りました。しかも一七三点と予想外の好成績でした。

挫折の私を後押ししてくれたのは妻と三人の子ども達でした。子どもにも大人にも大人気の任天堂DSと漢検ソフトをセットで私の誕生日にプレゼントしてくれ、ほとんど消費かけていた私のやる気モードに点火してくれたことが、今回の快挙につながっております。

今までの軟弱な学習法から脱し、漢検協会発行のテキストを熟読したうえで、過去問・予想問題を繰り返し学習、合格点を目指しました。一方で苦手、不出来の部分につき、単語カードを作成、あらゆる空き時間、場所、機会をとらえて復習また復習、不出来分の単語カードリング数百個が、最後には二リングになり、遂にはゼロになるまでがんばりました。継続は力なりを実感、また充実感もありました。

これからも、漢字のある生活を堪能、絶対ボケない老人となるべく、私の尊敬するT・A様(私の仕事上の上司であられた方です。現在90才に近いのでは…)を見習い、漢検一級合格回数積みかさねたいと存じております。

兵庫県 岡林さん

お父さんの努力を誰よりも知つていて、目標に向かって頑張るお父さんが好きだからこそ、家族からの温かいプレゼントでした。家族の支えと共に一級を勝ち取りました。

私は、平成二十三年度第三回検定で初めて一級に合格しました。二回目の挑戦でした。

子どもの頃から漢字が好きでした。社会人になり漢検に興味湧き、準一級の問題を見て「頑張れば大丈夫かも？」次に一級の問題を見て「これは絶対無理！」と思い、まず準一級に挑戦し合格しました。その後、一級に挑戦しようとは全く思いませんでしたが、「漢検生涯学習ネットワーク」の案内が届き、一級への挑戦を決意しました。一級は勘で当たるような問題はほとんどないので、方針は「知らない問題を作らないようにできるだけ多くの問題を解く」でした。過去五年分、その他問題集五冊を、仕事をしながら平日四時間、休日十時間毎日勉強しました。しかし不合格。心が折れそうでした。

そんなときに、「漢字教育サポーター養成講座」の案内が届き、これに応募するとともに、「絶対に一級に合格しないとイケない！」と再び闘志が湧いてきました。検定日が迫る中、講座の受講が始まり、勉強もラストスパート！今度は合格通知が届きました。感想は正直うれしいというよりホッとしました。

今後は、更に知識の研鑽に努めながら、来年から漢字教育サポーターとして、漢字の魅力を伝える活動に取り組みたいと思います。

兵庫県 松尾さん

漢字教育サポーター講座を受講されたことも、モチベーションアップに繋がったようですね。一級に苦戦しながらも合格したその経験は、漢字教育サポーターになった後も活かされることでしょう。

合格された皆様、本当におめでとうございます！

初合格を目指している方も、合格の暁にはぜひ感動の声をお聞かせください。

漢字同好会からのお知らせ

全国の漢字同好会の情報は、漢検ホームページからもご覧になれます。

<http://www.kanken.or.jp/associations/lists/>

北海道漢字同好会

特別講演会

～白川静文字学による～

「繋がりあう漢字たち」

日 時 ● 平成24年12月1日(土)

16時～18時

場 所 ● かでる27(8200号室)

(札幌市中央区北2条西7丁目)

内 容 ● 前半は象形文字の解説を通して漢字の成り立ちを知る講演です。後半は講師の指導の下、実際に筆を持つて甲骨文字を書く体験をします。

講 師 ● 安東麟氏 (古代文字書道家)

聴 講 料 ● 1000円(当日徴収・合実習費)

※用具はすべて当方で用意いたします。

定 員 ● 50名(定員を超えた場合は抽選)

申込方法 ● 住所・氏名・年齢・電話番号をご記入の上、往復はがきでお申し込みください。平成24年

申込締切日 ● 平成24年11月17日(土)消印有効

申込送付先 ● 〒006-0814

札幌市手稲区前田4条12丁目3-23

菅原方 北海道漢字同好会

北海道漢字同好会 事務局

TEL/FAX

011-6911-5123

Eメール kanji0764@nifty.com

福島県漢字同好会

「項羽と劉邦」を講話と詩吟で

日 時 ● 平成24年12月2日(日) 14時～16時

場 所 ● 郡山市男女共同参画センター

講 師 ● 神風流 永田知風

聴 講 料 ● 無料

「月例会」新年会を兼ねて

日 時 ● 平成25年1月13日(日) 14時～16時

場 所 ● 郡山市男女共同参画センター

お問い合わせ ● 福島県漢字同好会 TEL 024-923-1078

石川漢字友の会

平成24年11月例会・講演会

日 時 ● 平成24年11月25日(日) 13時30分～15時

演 題 ● 「加賀藩3代藩主・前田利常と周辺の人々」

講 師 ● 横山方子先生(石川県郷土史学会・幹事)

場 所 ● 北國新聞会館10階108教室

平成25年1月例会・講演会

日 時 ● 平成25年1月27日(日) 13時30分～15時

演 題 ● 「兼六園と三つの篇額」

講 師 ● 元康宏史先生

(石川県立歴史博物館・学芸課長・文学博士)

場 所 ● 北國新聞会館10階108教室

申込方法 ● ハガキ、FAX、又はEメールで10日前までにお申し込みください。入場無料、会員以外の方の参加も

歓迎します。(電話での連絡は、ご遠慮願います。)

お問い合わせ ● 〒920-0919 金沢市南町2-1

北國新聞文化センター 石川漢字友の会事務局

FAX 076-260-3427

Eメール ishikawa-kanji@pos.nsk.ne.jp

会員通信への投稿募集中!

会員通信を充実させるため、会員の皆様に会員通信への積極的な投稿をお願いしております。

● 常時募集

(掲載できかねる場合もございます)

漢字一字に込める想い

自分の好きな漢字、自分にとって思い出深い特別な漢字など、漢字一字に込められた想いについてのショートエッセイを募集します。その漢字一字と漢字にまつわるエピソードを、タイトルを必ず添えて500字以内(タイトルを含む)でお書きください。

一級に初めて合格しました!

この一年で、難関の一級に初めて合格した方の喜びの声と、合格のポイントを紹介いたします。以下の項目に沿って原稿をお書きください。

項目 ● ①いつ合格したか

②何回目の挑戦での合格だったか

③合格に向けて工夫したこと(勉強方法等)、励みになったこと

④合格したときの気持ち・感想

⑤今後の目標

対象 ● 平成23年度第3回(2月)〜平成24年度第2回(10月)の検定で初めて一級に合格された方
字数 ● 項目①〜⑤までで500字以内

漢字・日本語に関する お薦めの書籍紹介

書名、著者名、出版社名、発行年を明記し、お薦めの理由を250字以内にまとめてお送りください。

漢字に関するパズル・クイズ

子どもからお年寄りまで楽しめる面白い漢字パズルを募集します。問題と解答を必ずセットにしてご投稿ください。

例 ● 漢字クロスワードパズル、子ども向け漢字クイズ(学習漢字のみ使用)、難読漢字パズル等

漢検ホームページを ご覧ください!

漢検ホームページには、漢検の最新情報が掲載されています。

漢検生涯学習ネットワークのコーナーもあり、会員通信のバックナンバーもご覧いただけます。

住所や電話番号など、登録情報の変更を希望される場合にも、ホームページで書類をダウンロードできます。ぜひ活用ください。

投稿方法

原稿とともに会員番号、氏名(ペンネームで掲載希望の場合はペンネームも添えること)、電話番号を必ず明記し、郵便・FAX・Eメールでお送りください。

※Eメールの場合は原稿書式を「Microsoft Word」もしくは「一太郎」とし、添付ファイルでお送りください。

締切日

2012年12月10日(月)(協会必着)

すべての投稿を掲載できるわけではありません。原稿はこちらで一部省略・校正することがあります。ご了承ください。

投稿先

郵送 〒600-8585

京都市下京区烏丸通松原下五条烏丸町398
財団法人 日本漢字能力検定協会
漢検生涯学習ネットワーク担当

FAX 075-352-8310

Eメール lifelong@kanken.or.jp